

点検・評価報告書（商学研究科）

基準 1 理念・目的

1 現状分析

点検・評価項目①

大学の理念・目的を適切に設定すること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。

<評価の視点>

- ・大学が掲げる理念を踏まえ、教育研究活動等の諸活動を方向付ける大学の目的及び学部・研究科における教育研究上の目的を明らかにしているか。
- ・理念・目的を教職員及び学生に周知するとともに、社会に公表しているか。

① 学部等ホームページに、以下の項目を掲載し、社会に公表していますか。

- (1) 日本大学の目的及び使命
- (2) 日本大学の教育理念
- (3) 日本大学教育憲章
- (4) 学部においては、学部、学科ごと、研究科においては、研究科、専攻の課程ごと、短期大学部においては、学科、専攻科ごとの教育研究上の目的

[自己評価]

- 全ての項目を掲載している。
 一部の項目を掲載していない。
 その他回答

② 履修要覧に、以下の項目を掲載し、学生に周知していますか。

- (1) 日本大学の目的及び使命
- (2) 日本大学の教育理念
- (3) 日本大学教育憲章
- (4) 学部においては、学部、学科ごと、研究科においては、研究科、専攻の課程ごと、短期大学部においては、学科、専攻科の教育研究上の目的

[自己評価]

- 全ての項目を掲載している。
 一部の項目を掲載していない。
(4) について詳細に掲載しているが、(1)～(3)については大学院の履修要項には掲載していない。今後、掲載について所管委員会等において検討する。
 その他回答

2 長所・特色・問題点

なし

基準 2 内部質保証

1 現状分析

点検・評価項目①

内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。

<評価の視点>

- ・学部、研究科その他の組織における自己点検・評価をそれぞれ定期的実施し、その結果を活用して改善・向上に取り組んでいるか。
- ・学部、研究科その他の組織における自己点検・評価の客観性、妥当性を高めるために、学生の意見や外部の視点を取り入れるなどの工夫をしているか。

③ 学部等において、PDCAサイクルをどのように機能させているか、内部質保証体制（内部質保証推進委員会、自己点検・評価委員会、各委員会組織、教授会、執行部会等の役割や関係性）や、活動内容について記述してください。

商学部内部質保証推進委員会が中心となり商学部自己点検・評価委員会と連携しつつ、自己点検・評価結果、監事監査での結果、商学部独自で行っている商学部及び大学院商学研究科における教育活動の点検・評価の結果を検証している。そこで得られた改善事項を所管委員会へ対応依頼し、その改善結果を商学部内部質保証推進委員会で報告している。重要な改善事項等については、大学院課程検討委員会や大学院分科委員会にて意見集約を行うこともある。

④ 三つの方針について、どの組織が、どのように検証しているか記述してください。

商学部内部質保証推進委員会が中心となり、「日本大学商学部及び大学院商学研究科における教育活動の点検・評価について」に基づき、内部評価者7名と外部評価者3名が、評価を行い、検証している。

- ① 入学者選抜（アドミッション・ポリシーは、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえると、適切に設定されているか、商学研究科の教育・研究上の目的は適切であるか、等）
- ② カリキュラムの内容（カリキュラム・ポリシーを踏まえると、授業科目群の構成、授業科目の位置付け及びバランスは適切であるか、等）
- ③ 学修成果（授業科目ごとに、ディプロマ・ポリシーに示された3つの能力のうちどの能力に該当しているか、シラバスの記載内容から判別できるか、等）

⑤ 外部評価を実施（令和3年度から令和5年度までの期間）している場合、点検・評価項目を記述してください。

点検・評価項目は、①入学者選抜、②カリキュラムの内容、③学修方法・学修支援、④学修成果、⑤その他となっている。

⑥ 外部評価の結果、改善・向上に取り組んだ事項について記述してください。

外部評価者から「より実践的に学べる、フィールドワーク等を取り入れることを検討してはどうか」との意見があり、学内からも要望があったことから、新カリキュラムにおいて「ワークショップ」及び「フィールドスタディ」科目を新設し、より実践的な授業を提供できるようにした。

⑦ 今後、外部評価、分野別評価、法科大学院認証評価、J A B E E 認定を受審する予定があれば記述してください。

特に予定していない。

⑧ 教育の質の向上を図るために、学生からの意見を取り入れていますか。取り入れている場合は、その内容を具体的に記述してください。

新カリキュラムにおける授業内容に関する意見交換会を、大学院学生と大学院分科委員で行い、カリキュラムについてだけでなく、大学院学生からの要望等も聴取した。

学生からの意見を受けられるようホームページ等に連絡先を公開しているほか、学生コメントボックスを設置している。学生コメントボックスは学生課だけでなく、執行部、庶務課及び教務課も確認できるようになっている。受け付けた意見への対応については必要に応じて諸会議で検討している。

就職支援プログラム及び就職指導課員による個別相談実施後にはアンケートを実施し、内容の評価、理解度及び要望を把握し、次回の企画や相談員の質の向上に努めている。

点検・評価項目②

大学の諸活動の状況等を適切に公表し、社会に対する説明責任を果たしていること。

<評価の視点>

- ・教育研究活動、自己点検・評価結果、財務、その他の諸活動の状況等を適切に公表し、社会に対する説明責任を果たしているか。
- ・教育研究活動の情報として、学生の学習実態、学習上の成果に関わる情報を社会に分かりやすく公表しているか。

⑨ 学部等ホームページに公表している学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に定める以下の教育情報は、最新の情報に更新されていますか。

- (1) 教育研究上の目的
- (2) 教育研究上の基本組織
- (3) 卒業の認定に関する方針
- (4) 教育課程の編成及び実施に関する方針
- (5) 入学者の受入れに関する方針
- (6) 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績
- (7) 入学者の数、収容定員及び在学する学生の数
- (8) 卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況
- (9) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画
- (10) 成績評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準
- (11) 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境
- (12) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用
- (13) 修学支援、生活支援、進路支援その他の学生支援

[自己評価]

- 全ての項目が更新されている。
- 一部の項目が更新されていない。
- その他回答

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い、改善・向上に向けた取組を行っていること。

<評価の視点>

- ・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し、その結果に基づき、教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

① 学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか、どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また、その結果、改善・向上を図った事例等について記述してください。

内部質保証システムの有効性及び適切性に関して、教育活動のP D C Aサイクル並びに質保証の充実を図ることについて、商学部内部質保証推進委員会を中心として位置付け、商学部自己点検・評価委員会とも連携しつつ、教育の質保証体制を更に堅固なものとするべく対応している。その結果、新カリキュラムにおいて「ワークショップ」及び「フィールドスタディ」科目を新設し、より実践的な授業を提供できるようにした。

2 長所・特色・問題点

なし

基準3 教育研究組織

1 現状分析

点検・評価項目①

大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設置状況が適切であること。

<評価の視点>

- ・大学の理念・目的を踏まえ、また、学問の動向や社会的要請等に配慮した上で、教育研究組織（学部・研究科や附置研究所、センター等）を構成しているか。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

<評価の視点>

- ・教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。
- ・点検・評価の結果を活用して、教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的

な取組へとつなげているか。

⑫ 学問の動向や社会的要請等に対応すべく、学科や研究所の新設、学科の改組等、教育研究組織の見直しについて、どの組織が、どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また、その結果、改善・向上を図った事例等について記述してください。

学問の動向や社会的要請等に対応すべく、教育組織に関して、商学部内部質保証推進委員会において「日本大学商学部及び大学院商学研究科における教育活動の点検・評価について」に基づき、カリキュラムの内容の項目にて点検・評価を実施した。その結果、「より実践的に学べる、フィールドワーク等を取り入れることを検討してはどうか」との意見があった。学内からも要望があったことから、新カリキュラムにおいて「ワークショップ」及び「フィールドスタディ」科目を新設し、より実践的な授業を提供できるようにした。

研究組織の見直し等について、必要に応じ研究委員会や研究所運営委員会等で点検・評価している。改善・向上取組について令和6年度は該当なし。

2 長所・特色・問題点

なし

基準4 教育・学習

1 現状分析

点検・評価項目①

達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的な在り方を示していること。

<評価の視点>

- ・卒業の認定に関する方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしているか。また、教育課程の編成及び実施に関する方針において、学習成果を達成するために必要な教育課程及び教育・学習の方法を明確にしているか。
- ・上記の学習成果は授与する学位にふさわしいか。

[卒業の認定に関する方針について]（修士・博士・専門職学位課程）

⑬ 課程・専攻ごとに定めていますか。

[自己評価]

定めている。

定めていない。

その他回答

⑭ 「学生が修得すべき知識」、「技能」、「態度」等、当該課程・専攻にふさわしい学習成果を示していますか。

[自己評価]

示している。

見直す必要がある。

その他回答

㉔ ステークホルダーが見て、分かりやすく、理解しやすい表現・内容となっていますか。

[自己評価]

なっている。

見直す必要がある。

その他回答

[教育課程の編成及び実施に関する方針について] (修士・博士・専門職学位課程)

㉕ 課程・専攻ごとに定めていますか。

[自己評価]

定めている。

定めていない。

その他回答

㉖ 卒業の認定に関する方針との関連性が明確ですか。

[自己評価]

明確である。

見直す必要がある。

その他回答

㉗ 卒業の認定に関する方針に基づき、「教育課程の体系」、「教育内容」、「教育課程を構成する授業科目区分」、「授業形態」、「学修成果の評価」を示していますか。

[自己評価]

示している。

見直す必要がある。

その他回答

㉘ ステークホルダーが見て、分かりやすく、理解しやすい表現・内容となっていますか。

[自己評価]

なっている。

見直す必要がある。

その他回答

点検・評価項目②

学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。

<評価の視点>

- ・学習成果の達成につながるよう、教育課程の編成及び実施に関する方針に沿って授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

⑩ 各授業科目は、授与する学位（又は、課程・専攻）と整合していますか。

[自己評価]

- 整合している。
 見直す必要がある。
 その他回答

⑪ 各授業科目は、体系的に編成されていますか。

[自己評価]

- 編成されている。
 見直す必要がある。
 その他回答

⑫ 各授業科目の到達目標が、シラバスに明示されていますか。

[自己評価]

- 明示されている。
 見直す必要がある。
 その他回答

⑬ 各授業科目は、学習時間を考慮し、授業期間及び単位が設定されていますか。

[自己評価]

- 設定されている。
 見直す必要がある。
 その他回答

点検・評価項目③

課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。

<評価の視点>

- ・ 授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果及び教育課程の編成及び実施に関する方針に応じたものであり、期待された効果が得られているか。
- ・ 授業の目的が効果的に達成できるよう、学生の多様性を踏まえた対応や学生に対する適切な指導等を行い、それによって学生が意欲的かつ効果的に学習できているか。

⑭ 学習状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性を踏まえた対応をしていますか。

[自己評価]

- 対応している。
 見直す必要がある。

■その他回答

日本語を母語としない者は、外国文献研究（日）を選択することができ、日本語を母語としない者へも教育指導が行き届くようにしている。

⑳ シラバスは、学生が授業の内容や目的を理解し、効果的に学習を進めるために十分な内容ですか。

[自己評価]

■十分である。

□見直す必要がある。

□その他回答

㉑ 学生が意欲的かつ効果的に学習できるように、以下の項目について取り組んでいますか。

(1) 授業の履修に関する指導

(2) 学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認

(3) 授業外学習に資するフィードバック

[自己評価]

■全ての項目について取り組んでいる。

□一部の項目について取り組んでいない。

□上記以外の事項について取り組んでいる。

□その他回答

点検・評価項目④

成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っていること。

<評価の視点>

- ・成績評価及び単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施しているか。
- ・成績評価及び単位認定に係る基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示しているか。
- ・既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等を適切に行っているか。
- ・学位授与における実施手続及び体制が明確であるか。
- ・卒業の認定に関する方針に則して、適切に学位を授与しているか。

㉒ 成績評価及び単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施していますか。

[自己評価]

■実施している。

□見直す必要がある。

□その他回答

㉓ 成績評価及び単位認定に係る基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示していますか。

[自己評価]

明示している。

見直す必要がある。

その他回答

③⑨ 既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等を、客観的かつ厳格で、公正、公平に行っていますか。

[自己評価]

行っている。

見直す必要がある。

その他回答

④⑩ 学位授与における実施手続及び体制が明確ですか。

[自己評価]

明確である。

見直す必要がある。

その他回答

[研究指導計画について] (修士・博士課程)

④⑪ 研究指導計画を大学院要覧に明示していますか。

[自己評価]

明示している。

明示していない。

その他回答

④⑫ 研究指導計画には、入学から学位取得までの研究指導の方法、内容及びプロセスを明示していますか。

[自己評価]

明示している。

見直す必要がある。

その他回答

点検・評価項目⑤

卒業の認定に関する方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

<評価の視点>

- ・ 学習成果を把握・評価する目的や指標、方法等について考えを明確にしているか。
- ・ 学習成果を把握・評価する指標や方法は、卒業の認定に関する方針に定めた学習成果に照らして適切なものか。
- ・ 指標や方法を適切に用いて学習成果を把握・評価し、学部として設定する目的に応じた活用を図っているか。

④③ 学習成果を把握・評価する目的や指標，方法について記述してください。

シラバスに到達目標，DPを記載しており，多様な知識の修得，自らが追及した分野に関する高度な専門性，当該分野の研究能力を身に付けられるよう設定，学生に把握させている。

④④ 上記指標や方法を用いて把握・評価した学習成果を，学部等でどのように活用しているか記述してください。

教育改善が必要と思われる場合は，各教員から研究担当へ相談があり，教育改善が必要と思われる項目に関して，大学院商学研究科課程検討委員会にて検討を行っている。

[学位論文審査基準について] (修士・博士課程)

④⑤ 学位論文審査基準をホームページに公表していますか。

[自己評価]

公表している。

公表していない。

その他回答

④⑥ 学位論文審査基準を大学院要覧に明示していますか。

明示している。

明示していない。

その他回答

④⑦ 学位論文審査基準には，以下の項目が明示されていますか。

(1) 学位論文が満たすべき水準

(2) 審査体制

(3) 審査方法 (項目)

[自己評価]

全ての項目を掲載している。

一部の項目を掲載していない。

その他回答

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

<評価の視点>

- ・教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。
- ・課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。
- ・自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組ん

でいるか。

㉔ 教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

商学部内部質保証推進委員会が中心となり、「日本大学商学部及び大学院商学研究科における教育活動の点検・評価について」に基づき，内部評価者7名と外部評価者3名が年に1度点検・評価を実施し，検証を行っている。

㉕ 点検・評価するに当たり，学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報をどのように活用しているか記述してください。

学習成果や学修方法，学修支援についても点検・評価を行い，改善が必要な場合は対応を検討している。

㉖ 教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

自己点検・評価結果において，商学部内部質保証推進委員会を中心にして，教育課程，教育改善・向上に関して大学院商学研究科課程検討委員会にて検証し，改善の必要がある場合は対応を検討している。その結果や学内での意見も踏まえ，新カリキュラムにおいて「ワークショップ」及び「フィールドスタディ」科目を新設し，より実践的な授業を提供できるようにした。

2 長所・特色・問題点

なし

基準5 学生の受け入れ

1 現状分析

点検・評価項目①

入学者の受け入れに関する方針に基づき，学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し，入学者選抜を公平，公正に実施していること。

＜評価の視点＞

- ・入学者の受け入れに関する方針は，学位課程ごと（学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程）に設定しているか。
- ・入学者の受け入れに関する方針は，入学前の学習歴，学力水準，能力等の求める学生像や，入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示しているか。
- ・入学者の受け入れに関する方針に沿い，適切な体制・仕組みを構築して入学者選抜を公平，公正に実施しているか。
- ・入学者選抜に当たり，特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備しているか。
- ・全ての志願者に対して分かりやすく情報提供しているか。

㉗ 入学者の受け入れに関する方針を学位課程ごと（学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程）に設定していますか。

[自己評価]

- 設定している。
 設定していない。
 その他回答

㉟ 入学者の受入れに関する方針には、卒業の認定に関する方針及び教育課程の編成及び実施に関する方針を踏まえた「入学前の学習歴」、「学力水準」、「能力等の求める学生像」及び「入学希望者に求める水準等の判定方法」を志願者等に理解しやすく示していますか。

[自己評価]

- 示している。
 見直す必要がある。
 その他回答

㊱ 入学者選抜を、体制・仕組みに基づき公平、公正に実施していますか。

[自己評価]

- 実施している。
 見直す必要がある。
 その他回答

㊲ 入学者選抜に当たり、特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備していますか。

[自己評価]

- 整備している。
 見直す必要がある。
 その他回答

点検・評価項目②

適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。

<評価の視点>

- ・ 学士課程全体及び各学部・学科並びに各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数を適正に維持し、大幅な定員超過や定員未充足の場合には対策をとっているか。

大学基礎データ（表2）

研究科・課程	入学定員充足率の5年平均 (令和2年度～令和6年度)	収容定員充足率 (令和6年度)
商学研究科（博士前期課程）	0.35	0.34
商学研究科（博士後期課程）	0.08	0.13

㊳ 「大学基準協会の評価の指針」により、定員超過あるいは定員未充足の場合は、どのような対策をとっているか記述してください。

学生の受け入れについては、大学院商学研究科課程検討委員会において点検及び評価を行っている。定員未充足であることから、令和7年度入学試験より入学試験方式を増やし、外国人留学生入学試験（第2期）を行う。また入学志願者数を増やすための施策を検討し、予備校や塾などの入試広報活動先を拡大させ、対応している。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

<評価の視点>

- ・学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。
- ・点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取組へとつなげているか。

㊦ 学生の受け入れに関わる事項について、どの組織が、どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また、その結果、改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生の受け入れについては、大学院商学研究科課程検討委員会において点検及び評価を行っている。定員未充足であることから、令和7年度入学試験より入学試験方式を増やし、外国人留学生入学試験（第2期）を行う。また入学志願者数を増やすための施策を検討し、予備校や塾などの入試広報活動先を拡大させ、対応している。

2 長所・特色・問題点

【長所・特色】

学生受け入れの態勢として、アドミッション・ポリシーに基づき、自ら課題を発見し、それを解き明かしていくことを目指す学生を迎え入れている。令和7年度入学試験では、より優秀な入学者の確保のため、予備校や塾などに教員を派遣している。

【問題点】

定員未充足が続いていることから、令和7年度入学試験の結果によっては、今後も入学志願者の質と量を確保するための施策を検討する必要がある。

基準6 教員・教員組織

1 現状分析

点検・評価項目①

教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。

<評価の視点>

- ・「学部等教員組織編制方針」に基づき、教員組織を編制しているか。
 - ▶専任教員数の遵守、教員の構成

<ul style="list-style-type: none"> ▶教育効果に配慮したクラス編成，専任教員の授業負担への配慮 ▶教員の適切な役割分担及び責任の所在の明確化 ▶教員の資質向上 ▶その他，学部等として重視するポイント <ul style="list-style-type: none"> ・教員は職員と役割分担し，それぞれの責任を明確にしながら協働・連携することで，組織的かつ効果的な教育研究活動を実現しているか。 ・T A，S A又はG S Aを置いている場合，ガイダンスや研修を実施した上で業務をさせているか。

<p>(修士・博士課程)</p> <p>⑥③ 各専攻における研究指導教員数は，設置基準を満たしていますか。</p> <p>[自己評価]</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 全ての専攻において満たしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 一部の専攻において満たしていない。</p> <p><input type="checkbox"/> その他回答</p>
<p>(修士・博士課程)</p> <p>⑥④ 各専攻における教授数は，設置基準を満たしていますか。</p> <p>[自己評価]</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 全ての専攻において満たしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 一部の専攻において満たしていない。</p> <p><input type="checkbox"/> その他回答</p>
<p>(修士・博士課程)</p> <p>⑥⑤ 各専攻における研究指導教員数及び研究指導補助教員数の計は，設置基準を満たしていますか。</p> <p>[自己評価]</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 全ての専攻において満たしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 一部の専攻において満たしていない。</p> <p><input type="checkbox"/> その他回答</p>
<p>⑥⑦ 特定の教員に過度な授業負担が生じないように，どのように配慮しているか記述してください。</p> <p>次年度の授業担当コマについて，各科目担当者会議に，授業負担の調整を依頼している。</p>
<p>⑥⑧ 教育研究活動を実現するために，教員と職員とがどのように役割分担をし，それぞれの責任を明確にし，協働・連携しているか記述してください。</p> <p>目標達成に向けて業務を遂行していくに当たり，教員の知識や見識に基づいた企画や構想に関して，事務局として制度的なテクニカルな部分を中心に支援していくことで，教育活動へ積極的に参画し，大学運営に寄与していく。主には，委員会等を中心として教員と職員が協働・連携している。</p>

69 TA, SA又はGSAを置いている場合, どのようなガイダンスや研修を実施し, どのような業務をさせているか記述してください。

事前に, 業務内容や業務遂行上の注意事項, ハラスメントや個人情報保護について研修を行っている。

また, 授業時間内における教育補助業務として, 授業の補助や出席確認補助, 資料配布及び教室機材等の操作等を行わせている。

点検・評価項目②

教員の募集, 採用, 昇任等を適切に行っていること。

<評価の視点>

- ・教員の募集, 採用, 昇任等に関わる明確な基準及び手続に沿い, 公正性に配慮しながら人事を行っているか。
- ・年齢構成に著しい偏りが生じないように人事を行っているか。また, 性別など教員の多様性に配慮しているか。

70 教員を採用するに当たり, どのような方法(公募等)で募集しているか記述してください。

大学院専任教員はいないため, 教員の公募は, 学部教員として行っている。

71 「教員の募集」, 「教員の採用」及び「教員の昇任」について, 明文化された基準及び手続に従い公正に行っていますか。

[自己評価]

- 公正に行っている。
基準や手続き方法を見直す必要がある。

■その他回答

72 教員の年齢構成に著しい偏りがないように, どのように取り組んでいるか記述してください。

大学院専任教員はいないため, 教員の年齢構成は, 学部教員として行っている。

73 教員の男女比に著しい偏りがないように, どのように取り組んでいるか記述してください。

大学院専任教員はいないため, 教員の年齢構成は, 学部教員として行っている。

74 大学院担当教員の資格審査基準は, 大学院設置基準第9条第1項各号に沿ったふさわしい内容となっていますか。

[自己評価]

- ふさわしい内容である。
見直す必要がある。
その他回答

点検・評価項目③

教育研究活動等の改善・向上，活性化につながる取組を組織的かつ多面的に実施し，教員の資質向上につなげていること。

<評価の視点>

- ・教員の教育能力の向上，教育課程や授業方法の開発及び改善につなげる組織的な取組を行い，成果を得ているか。
- ・教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために，組織的な取組を行い，成果を得ているか。
- ・大学としての考えに応じて教員の業績を評価する仕組みを導入し，教育活動，研究活動等の活性化を図ることに寄与しているか。

⑭ 教員の教育能力の向上，教育課程や授業方法の開発及び改善につなげるために，どの組織が，どのように取り組み，その結果どのような成果を得ているか記述してください。

FDワークショップを開催し，大学院新カリキュラムにおける授業内容に関する大学院学生との意見交換会を実施し，教育課程の改善についての意見を，教員及び学生が互いに共有することができた。

⑮ 教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために，どの組織が，どのように取り組み，その結果どのような成果を得ているか記述してください。

研究活動については研究委員会等で様々な施策を検討することとしている。また社会連携センターを立ち上げ「あきない塾」を企画立案し，社会貢献に寄与しているが，開設間もないため実績を積み上げている状況である。

⑯ 教員の教育活動，研究活動，社会活動等に関する業績について，どの組織が，どのように評価しているか記述してください。

研究委員会等から，教員個人の研究業績を日本大学研究者情報システム等に掲出するよう周知徹底し，社会的評価を得られるようにしている。また学部（大学）ホームページでも教員の社会活動に該当があればニュースとして紹介したり，研究業績を取り上げたりすることにより広く認知されるようにしている。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

<評価の視点>

- ・教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。
- ・点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組む，効果的な取組へとつなげているか。

⑰ 教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

大学院商学研究科博士課程担当教員の資格認定については、各専攻及び大学院商学研究科課程検討委員会にて検討・協議している。その結果、今後は資格認定のための内規を変更し、より充実した教員組織とすることを計画している。

2 長所・特色・問題点

【長所・特色】

「日本大学教育憲章」及び「教学に関する基本方針」にのっとり、また「日本大学商学部教育方針」に従い、「商学研究科の教育研究上の目的」を達成するために全教員が真摯に教育・研究・学部運営に努めている。また、大学院担当教員の資格認定は内規にのっとり、公正公平、厳格に行っている。

基準7 学生支援

1 現状分析

点検・評価項目①

学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。

<評価の視点>

- ・学生支援に関する大学としての方針に基づき、各種の学生支援体制を整備し、教員と職員がそれぞれ役割を果たしながら支援を行っているか。
- ・各種の学生支援に当たり、専門的な知識・能力や経験を有する者を含む必要なスタッフを配置しているか。
- ・学生支援に関する情報を学生に積極的に提供するとともに、その支援は学生の利用しやすさに配慮しているか。

[修学支援（学習面）]

- ・学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようサポートする仕組みを整備しているか（補習教育、補充教育、学習に関わる相談等）。
- ・障がいのある学生や留学生の実態に応じ、それらの学生に対する修学支援を行っているか。
- ・学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）に対し、その実態に応じて対応しているか。

[修学支援（経済面）]

- ・学生に対する経済的支援（授業料減免、学内外の奨学金を通じた支援等）を、学生の実態等に応じて行っているか。

[生活支援]

- ・学生の心身の健康、保健衛生等に関わる指導相談を、学生の実態に応じて行っているか。
- ・学生の孤立を防止するため、人間関係構築につながる措置（学生の交流機会の確保等）を必要に応じて行っているか。

[進路支援]

- ・各学位課程（学士課程、修士課程や博士課程等）や分野等における必要性、個々の学生の特性等に応じ、就職支援のほか、職業的自立に向けたキャリア教育・キャリア形成支援等の進路支援を行っているか。

[その他支援]

- ・上記のほか、部活動・ボランティア活動等の正課外における学生の活動への支援等、必要に応じた支援を行っているか。

[学生の基本的人権の保障]

- ・ハラスメント防止、プライバシー権の保障や苦情申立への対応等、学生の基本的人権の保障を図る取組を行っているか。

[修学支援（学習面）]

- ㉞ 学生が能力に応じて自律的に学習を進められるように、どのようにサポートしているか記述してください（補習教育、補充教育、学習に関わる相談）。

教務課あるいは学生課が窓口となり、学生から相談があった場合は、適宜履修等について学修支援を行っている。障がい等の理由により、授業に特別配慮を希望する者に対応するため、学生支援窓口にてコーディネーターが聞き取りをし、その内容を基に、商学部障がい学生支援委員会にて、障がいのある学生に対する合理的配慮等について検討している。また、研究アドバイザー制度を用意しており、専門的な知識、経験等をもつ大学院担当教員以外の教員から具体的な助言及び支援を受ける機会を設けている。

- ㉟ 留年者について、どのように状況を把握し、どのように対応しているか記述してください。

現在留年者はいないが、留年者は指導教員が把握でき、必要に応じ、指導教員が研究担当に相談できる体制を整えている。

- ㊱ 退学希望者について、どのように状況を把握し、どのように対応しているか記述してください。

教務課が窓口となり、退学を希望する学生に対してヒアリングを行い、退学理由に内在する部分に関して、必要に応じて授業科目の履修であれば学修支援を実施し、心神耗弱など精神的な場合は合理的配慮に該当し得るか学生課と連絡したり、授業料等で不安を抱えている場合は奨学金の案内等について学生課と連絡したりするなどの対応をしている。

- ㊲ 留年者や退学希望者の減少に向けて、どのように取り組んでいるか記述してください。

留年者や退学希望者については、指導教員や教務課による面談等、必要に応じて相談できる環境を整えている。

[修学支援（経済面）]

- ㊳ 学生に対して、経済的支援（授業料減免、学内外の奨学金を通じた支援を除く）をどのように行っているか記述してください。

生活支援として、商学部独自で下宿先紹介業者3社と業務委託契約を締結し、新入生等へ住居情報を提供している。

[生活支援]

- ㊴ 学生の孤立化を防止するため、人間関係構築につながる措置（学生の交流機会の確保等）をどのように行っているか記述してください。

学生間の交流会が開催しやすいよう学部が認めた団体に対して学内施設の貸出し、またその団体が会合を行った場合、補助金を支給している。

[進路支援]

㉔ キャリア教育・キャリア形成支援等の進路支援をどのように行っているか記述してください。

「教学に関する基本方針」に基づき、学生が主体的に未来選択できるよう、就職指導委員会及び就職指導課が連携して学生の進路支援に当たっている。

在籍者の9割以上が留学生という特徴があることから、大学院留学生に特化した支援が必要となる。大学院担当教員と連携し、留学生に特化した連絡ツールにて周知を図っている。支援内容としては、東京都が運営する外国人雇用サービスセンターとの協働でZoom及びオンデマンドによるガイダンスを行い、大学院留学生に特化した査証の更新、就職活動事例及び求人情報等の紹介を行っている。特に採用実績のある外資系企業などの情報を提供することで、毎年のように修了者が入社し活躍している企業もある。

就職指導課においては、商学研究科の進路状況を熟知する10年以上のベテラン職員3名とキャリアコンサルタント有資格者が3名在籍しており、プログラム構築及び個別相談を受けている。また、中国語ネイティブレベルの職員も配置していることで、利用者の安心感の醸成に努めている。

近年、多様な進路支援サービスが普及しているが、先輩たちの体験と進路情報を所有しているのは就職指導課のみであることから、修了生の進路情報を収集しており、その情報を基にプログラムを構築し、相談に当たっている。

[その他支援]

㉕ 正課外における部活動・ボランティア活動等の学生の活動について、どのように活性化を図っているか記述してください。

地域警察署、商店街等と連携して、学生の自発的・主体的な活動として、学生団体（サークル）を中心に活動を認めている。一例として成城警察が所管する学生防犯ボランティア団体（SVS）が挙げられる。これは各種犯罪防止を目的とした街頭キャンペーンや防犯パトロールなどを行うものである。本学部生もサークル所属学生を中心に積極的に参加している。また、大学生による区立中学校活動支援員、砧地区古着古布回収などそれぞれ依頼に基づき、学生の募集を行い、参加している。

[学生の基本的人権の保障]

㉖ ハラスメント防止、プライバシー権の保障や苦情申立への対応等、学生の基本的人権の保障を図る取組について記述してください。

学生支援窓口、学生支援室にコーディネーター及びカウンセラーを配置し、1次的窓口として、ハラスメント及び人権侵害等の相談を受け、必要に応じた関連部署及びコンプライアンス事務局等と連携して、対応策を構築している。

また、就職指導課では、「就活ハラスメント」をテーマにしたゼミナールの研究を支援し、インゼミ大会にて学生が発表するとともに、成果物を就職指導課掲示板等にて周知し、学生及び教職員への啓発を図っている。学生から相談や申立てがあった場合は、就職指導課常駐のキャリアカウンセラーが話を聴き、本人の要望に応じて、学生支援室と連携するとともに、執行部への報告をし、解決を図る。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

<評価の視点>

- ・学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。
- ・点検・評価の結果を活用して、学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取組へとつなげているか。

㊸ 学生支援に関わる事項について、どの組織が、どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また、その結果、改善・向上を図った事例等について記述してください。

- ① 学生生活支援を検討する学生生活委員会を設置し、学生生活に関する学部長の諮問事項について審議し、答申する。学生がより快適な学生生活を送ることができるよう対応している。また障がいのある学生支援を実施するに当たり、商学部障がい学生支援委員会を設置し、障がいのある学生の合理的配慮の合意形成に関する事項等について審議し、専門カウンセラーによるカウンセリング、具体的対応策を講じている。
- ② 就職指導委員会を年に11回程度開催し、年間就職支援プログラムの検討、策定や実施したプログラムの報告を行うとともに、学生の進路動向の把握をしている。適切な時期に、適切な支援を提供すべく学生の傾向や採用環境の変化に合わせたプログラム構築ができるようPDCAサイクルを回している。

就職支援プログラム及び就職指導課員による個別相談実施後にはアンケートを実施し、内容の評価、理解度及び要望を把握し、次回の企画や相談員の質の向上に努めている。就職指導課では、1週間に1度、就職指導副委員長で、心理学を専門にする教員との学生相談の事例に基づいたロールプレイングと最新の採用環境の知識の共有を令和4年度より実施してきており、課員の相談技術の質の向上を図っている。その成果もあり、大学院学生と学部学生を合わせた就職個別相談件数が、令和4年度1,179件、令和5年度1,597件と増えてきており、令和6年度は更なる増加が見込まれている。個別相談後のアンケートでは、令和5年度において、大変良かった91%、良かった9%、普通以下が0%であることから、学生が相談に来ることで悩みの解消と成長を導くことができているといえる。

2 長所・特色・問題点

【長所・特色】

支援が必要と思われる学生に対しては、学生生活委員会、商学部障がい学生支援委員会、またコーディネーターやカウンセラーを通して、迅速かつ適切な支援を遂行できる体制が整っている。

また取得した情報は漏えいしないよう厳重に管理している。これにより学生は安心して学生生活を送ることができる。

就職指導課においては、1週間に1度のペースで課員の質向上のために学生の事例に基づいたロールプレイング研修と最新の採用環境の知識の共有を行い、相談技術の向上を図っている。

【問題点】

支援が必要と思われる学生がいても、当該学生からの申告がなければその事実の把握ができず、適切な支援をすることができないため、このような学生に対して、いかに本学部の支援に目を向けさせるかが課題であると考えている。

基準 8 教育研究等環境

1 現状分析

点検・評価項目①

教育研究等環境の整備に関する方針に基づき、学生の学習、教員の教育研究活動に必要な環境を適切に整備していること。

<評価の視点>

- ・教育研究等環境の整備に関する方針に基づき、学生の学習環境や教員の教育研究環境を適切に整備しているか。
- ・学生の学習や教員の教育研究活動の必要性に応じてネットワーク環境やICT機器を整備し技術的な支援を行う等により、それらの活用を促進しているか。
- ・学生及び教職員の情報倫理の確立を図るために取り組んでいるか。

89 バリアフリーへの対応をしていますか。

[自己評価]

- 全ての校舎において対応している。
- 一部の校舎において対応していない。
- その他回答

90 施設、設備等の安全・衛生の確保に取り組んでいますか。

[自己評価]

- 全ての校舎において対応している。
- 一部の校舎において対応していない。
- その他回答

91 施設、設備等の維持及び規定に基づいた管理をしていますか。

[自己評価]

- 全ての校舎において対応している。
- 一部の校舎において対応していない。
- その他回答

92 学生や教員に対し、ネットワーク環境やICT機器に関する技術的な支援をどのように行っているか記述してください。

ネットワーク環境については、キャンパス内の通信環境を整備し、オンライン授業への対応や学生が授業以外でもキャンパス内で自分の端末を使用してLMSでの授業受講・レポート提出等ができる環境になっている。

ICT機器に関する技術的な支援については、教育に新たな可能性をもたらすデジタル技術を活用できるよう視聴覚設備等の運用についてサポート体制を整えることで、学びを継続させる仕組みと環境を整備している。

また、学生や教員がICT機器の利用方法が分からない場合の支援や、教員がPC等のICT機器の購入する場合の仕様選定の支援をしている。また、無線LANへのアクセス方法等も支援している。

㉓ 学生の自主的な学習を促進するために、どのように環境整備をしているか記述してください。

学生が場所を選ばずに学習ができるように、キャンパス中に学生が利用できる無線環境を整備している。また、学生がいつでも自由に利用できるPCを約150台整備している。このほか、図書館やサイバースペースコスモスなど、教室以外にも自主的な学修が行える場所を設けている（グループ学習などの多様な利用が可能なスペースの整備、ゼミナールでの学生同士の議論などに活用できるPCルームの整備等）。

さらに、大学院学生のみが利用できる「大学院生コモンルーム」を図書館内に設置しており、自学自習スペースから図書館情報資源へ、アクセスしやすい環境を提供している。

㉔ 学生に対し、情報倫理を遵守させるために、どのように取り組んでいるか記述してください。

入学時に、「個人情報について」、「日本大学情報管理宣言」及び「インターネット上のSNS等の利用に関する注意」を周知している。

また、身近な外部デバイス(USBメモリ等)の取扱いについてのレクチャーを実施している。それに伴い学生がいつでも自由に利用できるPCについては、USBメモリを取り忘れた場合に、画面にアラートが出るようにしている。

㉕ 教職員に対し、情報倫理を遵守させるために、どのように取り組んでいるか記述してください。

I P A (独立行政法人情報処理推進機構)が毎年公開されている【10 大脅威】を共有している。

点検・評価項目②

図書館サービス及び学術情報サービスを提供するための体制を備えていること。また、それらを適切に機能させていること。

<評価の視点>

- ・ 図書その他の学術情報資料を体系的に整備しているか。
- ・ 図書や学術情報資料の利用促進するための取組を図っているか。
- ・ 図書館には、学生及び教員の利用のために、必要な専門的な知識を有する職員を含む人員を適切に配置しているか。また、図書館等の施設環境が適切であるか。

⑨⑥ 図書や学術情報資料の利用促進のために、どのように取り組んでいるか記述してください。

学部生向けのサービスに加え、より高度な内容のレファレンス、情報資源収集に取り組んでいる。また、日本語を母語としない学生も多いため、大学院学生向けの就職支援資料に加え、外国人留学生向けの資料も収書し、利用に供している。

学術論文検索においては、電子資料の利用率が高いため、個々のニーズに対応した利用指導を行っている。

また、大学院学生のみが利用できる「大学院生コモンルーム」を図書館内に設置しており、自学自習スペースから図書館情報資源へ、アクセスしやすい環境を提供している。

⑨⑦ 司書有資格者の人数を記載してください。

専任職員：1人，臨時職員：0人，派遣職員：0人，業務委託職員：13人

⑨⑧ 図書館分館独自の取組について記述してください。

学部生向けの企画に加え、希望に応じてゼミナール単位での利用指導，図書館ガイダンスを実施している。

点検・評価項目③

研究活動に関わる支援，条件整備を通じ，研究活動の促進を図っていること。また，健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。

<評価の視点>

- ・研究に対する大学の基本的な考えに沿って，長期的な視点に立った支援や条件整備を十分にいき，各教員の研究活動の活性化につなげているか（教員に対する研究費の支給，研究室の整備，研究時間の確保，専門的な研究支援人材の活用等の人的な支援，若手研究者育成のための仕組みの整備等）。
- ・研究倫理や研究活動の不正防止に関する規程を定め，かつ，学生も含めて研究倫理の遵守を図る取組を行っているか。

⑨⑨ 外部資金獲得のために，どのような学部等独自の制度や取組があるか記述してください。

複数の研究領域にまたがる横断的な研究テーマを「商学部特定・横断的プロジェクト共同研究」として募集・採択することで，将来の外部資金獲得を目指している。

⑩⑩ 研究時間確保や研究専念期間保障のために，どのような制度や取組があるか記述してください。

研究及び教育水準の向上を図るため商学部特別研究員（サバティカル）制度を設けている。研究に専念できる機会を設け，教員の研究環境を整備している。

⑩⑩ 若手研究者育成のために，どのように取り組んでいるか記述してください。

若手研究者には，研究担当を通じて，積極的に学内紀要への投稿を促し，研究業績を増やして，外部資金獲得につながるように支援している。

⑩ RAやPDを置いている場合、どのようなガイダンスや研修を実施し、どのような業務をさせているか記述してください。

該当なし

⑩ 学生に対して、研究倫理を遵守させるために、どのように取り組んでいるか記述してください。

新入生に研究費不正使用防止ハンドブックを配布し、また博士後期課程の学生はAPRINeラーニングプログラムを受講させている。

また、大学院における研究活動では、文献複写の機会や学術雑誌やデータベースの利用頻度が高くなるため、図書館利用に関するガイダンス等の機会において、著作権法を遵守した文献複写、電子資料の利用規約にのっとった適切な利用についての利用指導を行っている。また、レファレンスカウンター利用の都度、個別のニーズに対応した利用指導や注意喚起を実施している。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

<評価の視点>

- ・研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。
- ・点検・評価の結果を活用して、研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取組へとつなげているか。

⑩ 研究等環境に関わる事項について、どの組織が、どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また、その結果、改善・向上を図った事例等について記述してください。

研究等環境に関わる必要事項においては研究委員会や研究所運営委員会等で点検・評価している。改善・向上取組について令和6年度は該当なし。

2 長所・特色・問題点

【長所・特色】

教員、学部学生へのサービスと同様に、図書委員会において、前年度の図書館における収書・展示活動について行事の振り返りと、当該年度の展示計画を策定している。

図書展示の効果は、数値化された評価としては貸出し数でしか把握できないため、効果測定が困難であるが、展示コーナーで立ち止まって本を手にとる利用者を多く見かける。

基準9 社会連携・社会貢献

1 現状分析

点検・評価項目①

社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取組を実施してい

ること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

<評価の視点>

- ・学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取組を行い、社会に対し周知しているか。
- ・社会連携・社会貢献に関する取組により、地域や社会の課題解決等に貢献し、学部等の存在価値を高めることにつながっているか。
- ・社会連携・社会貢献に関する情報を社会に対し周知させる取組を行っているか。

⑩ 社会連携・社会貢献に関する情報を社会に対し周知するために、情報にアクセスしやすいように特設サイトを開設しているか。

[自己評価]

- 特設サイトを開設している。
- 特設サイトを開設していない。
- その他回答

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

<評価の視点>

- ・社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。
- ・点検・評価の結果を活用して、社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取組へとつなげているか。

⑩ 社会連携・社会貢献に関わる事項について、どの組織が、どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また、その結果、改善・向上を図った事例等について記述してください。

社会連携等に関わる必要事項においては社会連携センター運営委員会等で点検・評価している。改善・向上取組について令和6年度は該当なし。

2 長所・特色・問題点

なし